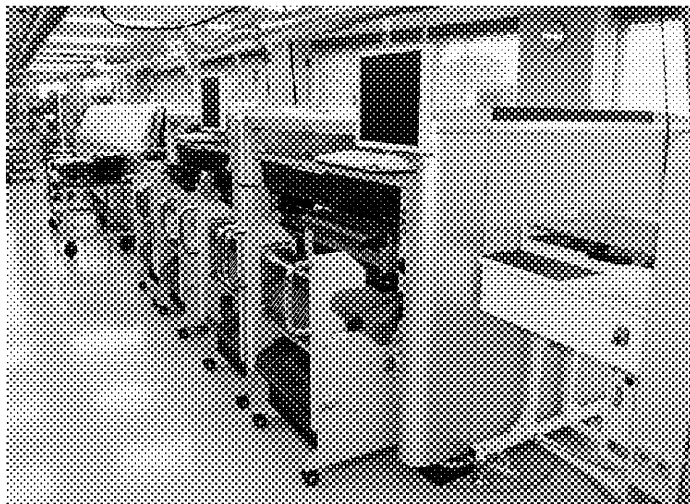


医療機器分野に参入



アイガ電子

電源回路基板増強

国際標準最高位取得へ

【水戸】アイガ電子工業（茨城県日立市、益子貴行社長）は、医療用機器分野に対応できる高品質な電源回路基板の製造ラインを6月をめどに導入する。リール状電子部品の保管管理を自動化する装置や極小部品に対応する表面実装機（マウンタ1）、ハンダ付けの精度向上のための窒素発生機など複数の設備を新規導入する。投資額は約1億2000万円。長寿命で信頼性の高い回路基板の製造技術を蓄積し、新たな顧客を開拓する。

アイガ電子工業は今回、国際標準である米

アイガ電子工業は既存の製造ラインを増強して高品質な回路基板を製造できる設備を導入

国電子回路協会（IPC）の規格「電子組立品の許容基準」で最高水準の「クラス3」に対応する製造ラインの構築を目指す。従来は

要なデータを蓄積した独自のデータベースを構築するなど、設計力の強化にも取り組む。設備投資には経済産業省の事業再構築補助金を活用する。

「クラス2」まで対応していたのを1段階引き上げる。そのために、人手の介入を減らして粉じんの混入を高度に防ぐための生産自動化や、ハンダ付け工程の精度向上などを推進する。新規設備は既存の製造ラインを増強する形で導入する。実装から検査までの一連の工程の機能強化と効率化を図り、負荷の高い環境下でも安定して作動する回路基板を製造できる体制を整える。

将来を見据えて新規分野の開拓を模索し、社内技術を活用できる分野として医療用機器分野に着目。生産技術の高度化で新たな収益基盤を構築したい考えだ。